

茎数多い！しっかり中干しを！ 穂肥は圃場ごとに確認し、適期適量を！

今年度は移植した時期によって圃場の生育に大きな差が見られます。生育状況を見て、適期・適切な施肥を行いましょう

まだ中干しを行っていない圃場では、直ちに中干しを行い、無効分けつを抑制し、根の活力を向上させ、穂肥がしっかりと行える稲姿にしましょう。

○6月30日現在の生育状況（置賜農業技術普及課 生育診断圃）

平年に比べ草丈は並～やや短く、茎数は多く、葉数は並み～やや少なく、葉色は並み～やや淡い状況です。

「はえぬき」の生育（5月23日移植）

項目	川西町		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	42.7	106	長い
茎数(本/m ²)	694	129	多い
葉数(枚)	9.1	-0.2	平年並み
葉色(SPAD)	43.6	+0.6	平年並み

「つや姫」の生育（5月20日移植）

項目	川西町		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	48.1	97	やや短い
茎数(本/m ²)	692	114	多い
葉数(枚)	9.2	-0.3	やや少ない
葉色(SPAD)	41.8	-1.2	やや淡い

●茎数 450 本/m²以下は穂肥を早める

●茎数 500 本/m²以下は穂肥を早める

「雪若丸」の生育（5月16日移植）

項目	高畠町		概況 (平年値との比較)
	調査値	平年比・差	
草丈(cm)	40.6	92	短い
茎数(本/m ²)	902	134	多い
葉数(枚)	9.9	-0.5	やや少ない
葉色(SPAD)	45.7	+0.4	平年並み

●茎数 560 本/m²以下
葉色 40 以下 は穂肥を早める

1か月予報（6月26日仙台管区气象台発表）

気温：6/27～7/3：平年並み**高い**見込み
7/4～7/10：**高い**見込み
7/11～7/24：**高い**見込み
降水量：並み～少ない見込み
日照時間：多い見込み

直ちに中干し！作溝とセットで効率的な水管理！暑い夏に備えましょう

○基肥一発肥料を施用している場合は、より適切な中干しと水管理が重要になります。

作溝の効果：間断かんがいの効率化 → 根の活力維持、地耐力の向上

作溝は、高温時の水管理“飽水管理”にも有効

中干しの効果：無効分けつの抑制、根の健全化、受光体勢の良化 → 登熟向上

※高温少雨となった令和5年は、用水不足で水尻まで水が届かない事例が一部で発生しました。

作溝は丁寧な水管理のために必要な技術で、暑い夏を乗り越えるための重要な作業です。

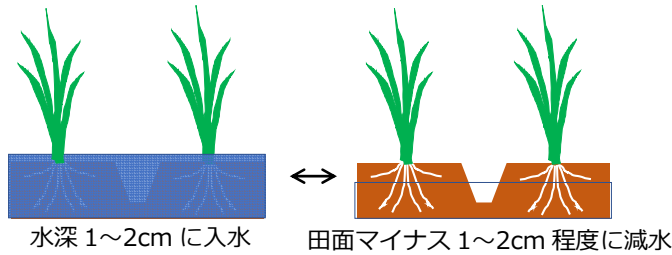
農作業事故・熱中症に注意！

◎「もうちょっと…」という無理が重大事故につながります。

◎ 熱中症予防のために水分補給と休息をしっかりと取りましょう！

高温対策技術（飽水管理） ～令和5年の状況を繰り返さないために～

飽水管理のイメージ



飽水管理のメリット

- 湛水管理と比べて ◎夜間の地温が0.5℃程度低くなる。
- ◎土壌を酸化的に保つことで、根の活力が維持できる。



飽水管理の様子

飽水管理：田面に水はないが、くぼみには溜まっていて、土壌が常に湿潤に保たれている状態

生育診断を必ず実施、遅れず穂肥！

- 穂肥の施用時期は下表を目安にし、施肥量はそれぞれの品種の生育診断に基づき行いましょう。出穂は平年並み～1日程度早まる見込みです。生育の早い圃場では遅れず穂肥を実施しましょう。

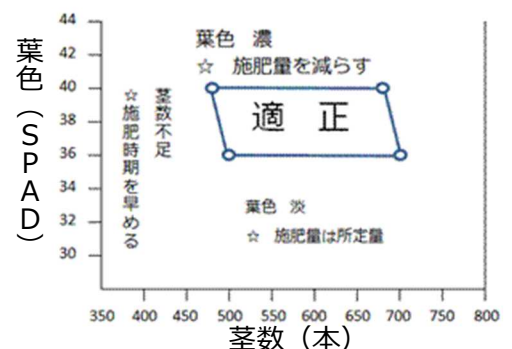
品種	出穂期 (本年予想)	出穂期 (平年)	穂肥の タイミング	穂肥時期の 目安	施肥量 (N kg/10a)
雪若丸	8月1日～2日	8月2日	出穂25日前	7月7～8日	1.5
はえぬき	8月2日～3日	8月3日	出穂25日前	7月8～9日	1.5～2.0
つや姫	8月8日～9日	8月9日	出穂30日前	7月9～10日	1.0～1.5
コシヒカリ	8月9日～10日	8月10日	出穂18～15日前	7月14～17日	1.0～1.5

【幼穂長と出穂前日数】 ～親茎をむいて幼穂の長さで判断～

幼穂の長さ：出穂前日数 → 0.5～1mm：25日 1.5～2.0mm：20日 8～15mm：18日 2～5cm：15日

はえぬきの穂肥診断 7月上旬（10葉期）

- 茎数と葉色が適正内であれば、穂肥は出穂25日前、窒素成分1.5～2.0 kg/10aを施用する。
- 茎数が700本/m²以上、または葉色が40以上の場合、窒素成分を減らし、**1.0～1.5kg/10aに減肥する。**
- 茎数が450本/m²以下の場合、穂肥時期を早める。



斑点米カメムシ類対策 発生量は「多い」(病害虫防除所)

- 草刈りによって出穂までに生息密度を減らしましょう。
- 除草は7月20日頃までに地域ぐるみで行いましょう。
- アカスジカスミカメの発生源となる水田内の残草対策もしっかり行いましょう。

※除草剤の使用時期を確認し、使用しましょう。

※農薬の散布にあたっては、隣接する他作物等に飛散することのないよう注意してください。



アカスジカスミカメ アカヒゲホリミドリカスミカメ